

第5回
台東区基本構想策定審議会

日時 平成29年11月27日
会場 1002会議室

台東区企画課

○出席者 (27人)

会長	懸田 豊	副会長	吉川 徹
委員	安島 博幸	委員	片山 泰輔
委員	山谷 修作	委員	有村 久春
委員	宮崎 牧子	委員	西 智子
委員	太田 雅久	委員	本目 さよ
委員	小坂 義久	委員	早川 太郎
委員	秋間 洋	委員	石塚 麻梨子
委員	河野 雄太	委員	成田 多恵子
委員	山藤 弘子	委員	黒田 収
委員	小田切 満寿雄	委員	早津 司朗
委員	二木 忠男	委員	富士 滋美
委員	安倍 智	委員	佐々木 聡
委員	牧田 としみ	委員	野坂 羊子
委員	石原 喬子		

○欠席者 (3人)

委員	伊藤 正次	委員	守屋 有晶
委員	峯岸 由美子		

○事務局

企画財政部長	佐藤 徳久
企画課長	前田 幹生
財政課長	酒井 まり
情報システム課長	飯田 辰徳

(午後7時00分 開会)

1. 開会

○会長

前回までは各分野に対する区の考え方についてご報告いただきました。本日は、主として各種調査等の結果報告と、基本構想の最終的なまとめ方についてご審議いただきたいと思えます。それでは、まず配布資料および委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

—配布資料及び委員会出席状況のご報告—

○会長

ありがとうございました。次に本日の審議会の傍聴についていかがでしょうか。

○事務局

現時点で、傍聴の申し込みはございません。

議題（1）区民ワークショップの開催結果について

○事務局

—区民ワークショップの説明—

○会長

ありがとうございました。1点確認しておきたいのですが、区民の方々は、何かの資料を基にご討議いただいたのですか。それとも全く白紙で、テーマだけ与えてご討議いただいたのですか。

○事務局

こちらのワークショップにおきましては、分野ごとに資料をご用意いたしまして、事前に区の職員から概略について説明の上、検討に当たっていただきました。

○会長

ありがとうございました。区民の方の生の声が表れているのかと思います。この資料につきまして、何かご質問あるいはご意見ございますか。

○委員

この区民ワークショップですが、私も全部ではないですが、やっているところを見せて

いただきました。ここに書いてあるとおり、男女比も半々くらいでしたし、若い方も参加していただいて、しかもファシリテーターもうまくやっていただいて、皆さん楽しそうにという語弊があるのかもしれませんが、とても真面目に議論をしていただいていたというのが感想です。今回の審議会に入るに当たって、20年後の台東区を見据えてというテーマについては、私も結構真面目に考えています。

大きな括りで言うと、台東区は下町のままで良いのかどうかというような議論がありました。私もまさにそのとおりだと思っております。毎年1万5千人以上が台東区に入ってきたり出て行ったりというような中で、なおかつ台東区で多かった自営業者等がサラリーマン化しているような状況で、今後20年を見据えたときに、今の台東区の下町らしさということが正しいのかどうか、村的な部分をなるべく残していったほうが良いのか、それとも新しい都市に近付けていくようなかたちになるのか、どちらが良いのかをすごく考えていました。20年後のテーマに書いてあるとおり、例えば新旧の融合や多様性という言葉がものすごく出てきています。観光客も住んでいる方も外国人が増えてくるという意味で、多様性の部分に言及しています。やはり台東区というのは、古いもの、今まで培ってきたものをベースに、これまでも新しいものを取り入れて発展してきたかと思えますので、20年後に関しても、区民の方、今回区民ワークショップに参加した方々も、その辺の感覚をととても意識していて、そういうことが良いと言っている方が多かったというのを聞いて、やはりそうなのかというのが素直な感想です。

それから、分かりやすく書いてほしいというのもそのとおりだと思ったのですが、その辺のことを意識しながら、この後の基本構想の小委員会を含めてやって行って良いのだと分かったこともとてもありがたいと思えました。これはワークショップだけではなく、この後ご報告があるものもそうですが、割とそういうことが皆さん一致して書かれている部分があります。何となく区民の方々のニーズ、思いというところを真面目に考えてそのようになっているというのが分かって、とても良い資料であり、やっていただいて良かったという、意見だけ言わせていただきます。

○会長

ありがとうございました。小委員会の中で、貴重な情報として活用していただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。その他何かご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。

議題（2）若手職員懇談会の開催結果について

○事務局

—若手職員懇談会の説明—

○会長

25名の方々が3回にわたってご討議いただいたわけですが、この内容につきまして、何かご質問ございますか。

○委員

今回のこの若手職員の懇談会も新たな基本構想の策定に活用するという目的で行われたとのことですが、先ほど区民ワークショップで会長が言われたことと同様に、どのようなかたちで行ったのか、例えばテーマを事前に持ち寄って、これについてやるからよく考えておいてください、というように、具体的にどういった討議を行ったのか、もっと細かく教えてください。

○事務局

こちらも20年後のテーマや各分野につきましては、概略について説明をさせていただきました。それから職員の所属や、職種も事務や技術職の職員もおりますので、そういったバランスを考えた班編成を行いました。ですので、全く知識がない状況で討議を行ったというよりは、各班にいずれかの知識を持つ職員がいる状況をつくり、その中で討議を行っております。やり方としては、ワークショップとほぼ同じで、付箋に意見をそれぞれ出し合って、意見を交わしながら方向性をまとめていった、そのようなやり方で行っております。

○委員

よく分かりました。実際の分野別のテーマに沿った課題についての解決の方向性は、非常に具体的で、今後の小委員会で非常に参考になるものがあると感じております。全部言う時間がありませんが、3ページにあるいわゆる文化めぐりんの運行や、生涯学習の部分で、隣接区とのスポーツ施設の共同運用など、このようなことを今後どう行っていくか、いろいろ課題があるのは当たり前ですが、こうした意見が出されるということは非常によろしかったのではないかと思います。しっかりと次の小委員会で参考にして、議論を深めていきたいと思いました。これは感想です。以上です。

○委員

今お聞きして、非常に分かりやすくまとめられていて、区の若手職員の方が新しい発想で考えられているワークショップと伺いました。全体を通して、特に異論というわけではないですが、率直に言わせてもらおうと、少し物足りないという印象です。というのは、区の行政をこれから20年30年担っていく若手の職員の人が、もう少し大胆に、これをつくり変えようと、簡単に言うと、大変失礼な言い方かもしれませんが、今の課長さんや部長さん方が考えていらっしゃることは方向性がおかしい、古い、私たちはこのよう

にする、と積極的な案が出てきても良いのではないかと思います。正直なところ、少しがっかりした面もあります。

若手職員懇談会の結果が区民ワークショップとほとんど同じなのです。区の行政マンとして、ビジョンを持って、台東区をこうつくり変えて、区民と一緒にこういう20年後の台東区をつくっていかうというエネルギーが感じ取れません。厳しく申し上げて恐縮なのですが、区民の側に立っていないと思います。本来であれば、私たちは行政マンとして、自分はこのようにやるというようなことがあって、それを例えば区議会の議員の先生方にも提案をさせていただくなど、いろいろなことがあるのではないかと思います。私は行政の仕組みのところをうまく言い切れないのですが、区の行政、在り方を転換させるような発想が欲しいというのを正直に思いました。その辺り、どのように展開されたのか、私の解釈の仕方、理解が間違っているとすれば、教えていただければと思います。

○事務局

今回のやり方につきましては、各職員が実務的なレベルで物事を考えてしまっており、今回の懇談会の開催方式に若干反省すべき点があるというのは正直感じているところでございます。ただ、その中でも幾つか参考にできる情報が散りばめられている部分もあると認識しておりますし、具体的などころもございますので、そういったところはこの後の長期総合計画、行政計画に活用できる部分はしっかり活用していきたいと考えているところでございます。

○委員

せっかくの試みで聞きたかったことはもう一つあります。この台東区役所で働いていて、どう考えているかという意見を、若手職員から聞きたかったです。今後自分がどのように、どういう分野で働きたいかなど、皆さん不明瞭でしょう。自分たちの将来をどう考えているのか、そういう意見をここの中で吸い上げていただけたら良かったかと思います。非常にやりにくい環境の中でやったのでしょうか。

○事務局

委員からのご指摘のとおり、準備している事務局側としてもそこはしっかり反省をしなければいけないというところで、そういった若手職員の思いを引き出すようなやり方、プロセスを今後も検討させていただいて、ご指摘の点を踏まえてつなげていきたいと考えております。

○副会長

私どもの専門の立場から、恐らく職員さんが言いにくかったことが顔を出しているところを数点だけ指摘をさせていただきますと、資料2の最後の6ページの部分が、今ご発言

があったことに多少絡んでいる部分です。行政事務の効率化のところでペーパーレス化の促進というのはよく分かるのですが、資格を取得した職員への手当での支給というのは、台東区さんは建築系の職員さんをたくさん抱えておられて、確認や指導の業務、まちづくりをたくさんやっておられると思いますが、1級建築士の資格に受かると、予備校代の一部分を後で負担する自治体は結構ございます。それを認めるべきかというのは、区役所でも区議会でも問題になると思いますが、1級建築士を取る、できれば建築指導主事の資格まで取れば、区政で建築審査会などを運用するとき、非常に戦略的に運用ができます。この部門の専門家を育成したりすることが、区のまちづくりの力を向上させるようなことがあるかと思います。恐らく他の分野もそのようなことはあるはずですが、ここの部分は恐らくきれいに丸めてこういうかたちになってしまったということがあると思いますが、どこかにそのような本音のようなものがあって、そこをきちんと読んで捨てるという仕事を本当は私どもがしなければならぬのかと思います。

もう一つ、例えば近接地に住む職員への家賃補助というのは、端的に言うと、若手は台東区に住むには家賃が高くて、区民になれない、というところだと思います。例えば東京都は、防災上駆け付けられるという条件を付して、時々参集訓練をするという前提で若手の職員に官舎を提供するというをやっていたりもします。このようなところも含めて、言いたいことがさり気なく組み込まれているようなところを読み込むという作業も私どもですべきかと思いました。

○委員

一つ質問と、それに関連して意見なのですが、この職員の方々は、先ほど技術職の方も同様ということでしたが、いわゆる公務員試験を受けた正職員以外の非常勤の方や嘱託の方も含まれているのでしょうか。

○事務局

こちらは全て正規職員です。

○委員

行政経営のところで検討していく必要があると思っているのが、今公務員の定数管理が非常に厳しい中、多くの自治体で非常勤や嘱託の身分で働いている方がかなり多く、そういう人たちが重要な任務を果たしているケースが多いということです。私の大学も県立の大学なので、事務局は皆そういう状態ですが、公務員試験を受けて入った人たちだけが特権階級のような、身分制度のようになっている職場が非常に多いです。そういう状況であると、身分の違う立場の人たちはモチベーションが上がらないですし、能力が発揮できずに組織としてのパフォーマンスが上がってこないということがしばしばあります。ILO（国際労働機関）などでも同一労働、同一賃金が掲げられていますが、これは日本の場合

とても遅れているので、その辺のところを対応すれば、全員正職員になる必要はないと思います。いろいろな働き方があって良いと思います。ただやはり、正職員とそうではない人との間に不合理な差別があるような状況というのは、職場としての組織文化も良くなりませんし、結果として行政サービスの質を高めていくことにならないので、全国的にも言われていることですが、その改革はぜひ今回の計画の中にも盛り込んでいただきたいと思います。本当は職員の方々から意見として出してほかったのですが、今回は正職員の方だけだったということで、なかったかもしれないので、その辺を付け加えさせていただきます。

○会長

ありがとうございました。今のご質問について、何かお答えすることはございますか。

○事務局

区でも多くの非常勤職員を採用しておりまして、専門的な職務に当たっています。確かに専門性を生かすという点では、こういった懇談会にも参加していただこう、という考え方はありますが、今後非常勤職員の制度の改革等もございますので、委員からのご指摘の点についてはそういったところの中で検討していくかたちになると思います。

○委員

私は小委員会の子育て・教育の部門の委員でもあるのですが、この資料2の6ページの教育・子育てのときの教員の負担軽減については、確かに必要だと思います。先生方はだいぶ負担が大きくて、ノイローゼになったりする方もいらっしゃるので危惧もしておりますが、先生方のレベルアップというのがこれから重要かと思っています。20年後、教育もすごく変化して行って、そこに先生方が追い付かないと、先生がダウンしてしまうのではないかと思っています。ですから、先生方のレベルアップをどうするか、そういうところも必要ということに気が付きました。

○会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。一つお伺いしたいのですが、区民のワークショップというのは生データを付けていただいているので、小委員会のとくにいろいろな議論の資料になろうかと思うのですが、若手職員懇談会というのは、参加した職員が小委員会に出ただけなのか、あるいはそういう生データの資料が追加されるのか、いかがでしょうか。

○事務局

職員の出席につきましては、業務の都合もございますので、現時点では事務局のほうか

ら資料の提供をさせていただければと思っております。

○会長

事務局が答えられるのかということです。私は多分産業のところをやるのでしょうかけれども、それぞれの分野で見ていくと、例えば経営者の後継者不足と書いてあります。経営の承継の問題を論じているのか、従業員がいないということを言っているのか、その辺はどうだったのですかといったときに、答えていただけるのかということです。

○事務局

事務局で極力対応させていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。多分こうしてまとめると、文言的に疑問を持たれる方がそれぞれ出てくると思いますので、その辺はできるだけ若手職員の声が反映されるように、お答えいただければと思います。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

議題（３）区民アンケートの実施結果について

○事務局

—区民アンケートの実施結果についての説明—

○会長

ありがとうございます。サンプルも違いますし、単純な比較はできないわけですが、前回５年前の調査と比較したものでいきますと、区民の方は、それぞれの施策に対する重要度が非常に高いものが多くなっているのに対して、満足度は低いという結果であるということです。その他、何かご質問等あればと思います。詳細は報告書の中で記載されているわけですが、WEB調査について何か特徴的なことがあったでしょうか。

○事務局

別紙の３２ページ、３３ページをご覧ください。こちらで重要度、満足度の項目間比較を行っております。３２ページ、３３ページが来訪者アンケートの結果、その手前の３０ページ、３１ページが区民アンケートの結果です。重要度をみますと、来訪者の方は災害対策よりも観光振興を重視されている傾向が若干見られたり、満足度も観光振興のほうが上位に来ているといったような結果が出ております。また、満足度でいきますと、３番目にまちづくりが入ってきております。この辺りが違う点といえるところです。

○会長

ありがとうございました。このアンケート調査結果について、何かご質問ございますか。

○委員

3ページを見ますと、文化振興、それから観光振興は非常に満足度が高いですが、このアンケートをされるときに、回答される方に何らかの資料等を提供されて、その中身についてある程度理解されてお答えいただいたのでしょうか。

○事務局

恐れ入りますが別紙の49ページをご覧ください。こちらが実際に使用したアンケート用紙でございます。49ページの質問の前に、網掛けになっている部分で、概略についてはお示しをさせていただいた上でお答えをいただく、このようなかたちでやらせていただいたものでございます。

○委員

ここに書かれている4行ぐらいで判断されて、あとは普段から感じておられることだということですね。それで、半分くらいの方が満足である、普通まで含めると9割くらいになっているわけなのですが、何か心当たりとございますか、どのようなことで良い評価となっていると思われませんか。

○事務局

文化振興、観光振興という点につきましては、区としても非常に力を入れてきたという部分がございます。観光施策でいえば、浅草文化観光センターの改築、また、近年では西洋美術館の世界遺産登録などがございまして、文化観光分野につきましては、非常に注目度が高かったというところが一つ大きな要因ではないかと考えているところでございます。

○副会長

先ほどのお話で来訪者アンケートをやってみたというお話もありましたが、細かく見てみると興味深いところが幾つかあります。例えば、別紙の45ページで台東区の魅力と台東区の魅力が向上するための条件を聞いています。頭の三つくらいは魅力でもあるし充実してもほしいと書いてあるので、それは一般論として魅力であって今後も伸ばしていくと良いのではないかと読めます。それ以降の例えば犯罪の不安が少なくなることなど、上の魅力と下の条件が非常に乖離している項目が幾つかあります。そういう項目が恐らくリアルに台東区に対するネガティブな評価として表れているところです。上と下で同じようなところにあるものは、ポジティブな評価だからもっと頑張れですが、ネガティブな評価が出ているところは、そうやって読み込んでこの二つを比べてみると分かってきます。そ

ういうところで細かくご覧いただくと、様々な情報が拾える可能性があります。

さらに、先ほどのご指摘のとおりなのですが、外の人から見ると、まちづくりは充実しているのではないかと言うのですが、中の人にはあまりそう思っていないということです。外から見た図と中から見た図が違っているというところも幾つかあるようなので、これで来訪者と区民アンケートを突き合わせていただくと、相互に何か言えることがあるかと思えます。区民アンケートについても、特に住み続けたい定住意向の部分の細かい項目を注意深く読んでいくと、やはり似たようなことが起こっています。回答者は、とても台東区思いだから、褒めてあげようかというように、常にアンケートはあるバイアス（偏り）がかかって、回答するときに出題者のことをおもんばかりで丸を付けるという方が日本人は多いので、非常に親切に回答しています。特に台東区のようなところは親切に回答して下さるのですが、よく見てみると、少し本音が出ているというところもあります。注意深く見ていただくとよろしいのではないかと思います。

同じように、区民アンケートの結果で、先ほどの重要度が高まる、満足度が下がるということなのですが、例えばパートナーシップの促進や生涯学習については、重要度が下がっているわけではなく上がっています。ですから、区民の区に対する、区政に対する関心は全般的に大幅に上がっていて、皆が大事だと言うようになってきているということです。そう考えると区政が注目されてきているという状態の中で、満足度がそのまま保持できている、教育などはほとんど保持できている、ほぼ同じ値なのですが、注目度が上がるとともにあらが見える分野もあります。私どもに近い分野でいうと、災害対策です。2012年、つまり震災1年後なのに重要度の平均値が1.65だったのが、今回は1.85以上に上がっているわけで、ここ数年の間で、災害に対する区民の意識は大きく向上しています。それは実は良いことだと思います。区民は非常に区の情勢について危機感を持っていたり、詳しく勉強するようになってきているのではないかとポジティブに捉えられるところがあり、必ずしも満足度が低下しているからこの施策が、というだけではなく、区民の目が肥えたということも読めます。その面でいうと、良い施策を展開できる素地が出てきたというように捉えることもできます。細かいところ、自由回答も含めて、いろいろ分析をされて、良いキーワードを拾ったり、注意点を拾っていく作業もお進めいただけるとよろしいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。その辺はまた小委員会でご議論いただければと思います。他に何かございますか。よろしいでしょうか。

議題（４）中学生と区長との語る会の開催結果について

○事務局

—中学生と区長との語る会の開催結果についての説明—

○懸田会長

これについても確認になりますが、これは事前に中学生の方々に、「こんな台東区になってほしい、私が考える未来の台東区」というテーマを与えておいて、当日何らかのかたちで区長に対して、生徒が発表された要旨が書かれているということですか。それともこのテーマで中学生と区長とが議論したことが書かれているのですか。

○事務局

こちらの概略につきまして、簡単にご説明させていただきます。生徒さんたちには、事前にこのテーマをお伝えし、それぞれご自身のお考えをまとめていただきまして、当日区長の前でその考えを発表される、それに対して区長からコメントをいただく、このようなかたちで進めさせていただいたということでございます。

○委員

台東区の生徒が非常に意欲的に台東区のことを考えているとよく分かる資料だと思います。特に何々してほしいという希望を述べているわけです。これについて区長や出席者が、現状はこうですといった答えやレスポンスがあったのかというのをお聞きしたいのが一つです。

それからもう一つは、これは希望で、できれば実現してほしいのですが、こういう会がある程度継続的にやってもらいたいという気がします。また、これからの時代を生きる子供たちの夢を育むという非常に大事な企画だと思いますので、これを発展してほしいというのが二つ目です。もしよかったらコメントをいただければありがたいです。

○事務局

お手元の別紙の1番目に、例えばこちらの生徒さんが、「おもてなしの心とより良いサービスを提供してリピーターを増やし、20年後も観光立区としてみんなに愛される台東区であってほしいです」という記載がございます。これに対して区長からは、現在区で取り組んでいる花の心プロジェクトの例を挙げまして、おもてなしの心や教育委員会で取り組んでいる花育の話をして、生徒に対してそのようなことにも取り組んでほしいというコメントをしております。このようなやり方でやっております。

それから、中学生と区長との語る会につきましては毎年実施をしております、テーマは毎年変わりますが、今年度は基本構想の策定年次でもありましたので、この会を活用させていただきました。中学生と区長との語る会の発展につきましては、教育委員会等ともその辺の話をさせていただければと思っているところでございます。

○委員

もう一つ、これは希望なのですが、これは教育委員会と学校が連携してやっているとい

うことはよく分かるのですが、できれば学校から離れて、ダイレクトに中学生に呼び掛ける、高校生に呼び掛けるなどのアプローチもあって良いと思います。といいますのは、学校を通すということになると、どうしても先生たちの手が入ってしまいます。エネルギーな若者の力を区長さんにぶつける、行政担当の人にぶつけて議論する、そういうことがあって良いのではないかと思いますので、これは希望ですが、そういう取り組みもしていただければありがたいと思います。

○委員

結果を見せていただいて、別紙の4番や5番、そして8番のところで、私の子供と同じぐらいの世代なのですが、私たちが子供だったときと全く違う環境で、同じクラスの中で、机を並べて、普段から外国人の友達と生活し学んでいる、そして先ほども区民アンケートなどでもありましたが、また外部の方からのアンケート結果にもあったように、台東区のイメージで観光、まちづくりというところが挙がってきます。子供はまさにこの区の未来になると思います。そして、このような中学生から新と古の融合したまちになってほしいといった意見や、国際交流の深い台東区である、といった意見が出ています。今後討議していく中でキャッチフレーズのようなものをつくっていくと思うのですが、積極的に子供が挙げてくれるようなものをキャッチフレーズに入れていくというのが良いのではないかと思います。20年後というのは、まさにこの中学生や小学生が区の顔になっていく時代になりますので、キャッチフレーズなども子供たちに考えてもらうというのも良いのではないかと思います。

渋谷区や中央区辺りが台東区と似ているのかと思ったのですがけれども、渋谷区ほど若いまちではないですし、中央区ほど敷居が高くはない。外国の方に区のイメージを伝えるときに、どうしても雷門を選んでしまいますが、そういったものがこのまちにあるということは、間違いなく台東区は東京の顔であると思いますので、日本の誇れるまちとして、今回の構想を考えていきたいと思っております。

○会長

ありがとうございました。この中には、別紙の5番のように、「台東区が一番人気」という希望が、小さい子供たちにはあるのかと思います。他にいかがでしょうか。

○委員

観光の立場から一言お話をさせていただきたいと思います。浅草には皆さんご存じのとおり、三社祭がございます。これは観光資源として非常に大きなものですが、そもそも三社祭は宗教行事です。観音様が見つかったことを祝って始まったものが、氏子が三社様のためにやっているお祭りが、結果として観光資源になっているということです。世界的に見ても、メッカ巡礼など、そういった宗教に絡んだものが観光につながっています。イタ

リアへ行けばバチカンがあって、そこへたくさんの方が訪れます。こういったことがあるわけなのですが、行政と宗教法人というのは、どうしても一緒になれません。それが将来的に垣根をうまい具合に乗り越えて、今雷門の話も出ましたが、雷門は浅草寺の総門ですから、それを台東区が観光のために使うということは、今のところできないわけです。台東区というところは、昔の古地図で見ると真っ赤な区で、お寺、神社仏閣ばかりのところでありますから、そういったところがお互いに観光ということにもう少し歩み寄って、うまく機能していってくると、もっと積極的な何かができるようになるのではないかと思います。20年後に向かって、何かうまい解決方法を考えていただくとよいのではないかと思います。

○委員

観光、文化、伝統、こういったものを大事にしてほしいという中学生の方々の意見を聞いて、今日は非常にうれしいです。そういった意味で、台東区が誇るべきこういったものをさらに推し進めるということは非常に重要だと思います。

また、アンケートで満足度、重要度ということで出てきましたけれども、観光振興や災害対策で申しますと、上野では、外国人の店員の雇用のことや客引きの問題などがあります。それから、観光拠点として、浅草には浅草文化観光センターが雷門の前にありますが、上野には観光センターがないということで、皆さんが右往左往してしまいます。防災を兼ねた観光センターは絶対に必要です。

それから、今年を振り返りますと非常にどろどろとしたニュースが多かったのですが、定期的にテレビでパンダの赤ちゃんのニュースが取り上げられました。これは非常に大きな点だと思います。今後も総合的に観光、文化分野の取組みをさらに推し進めてほしいと思っています。

○副会長

真面目に答えているから、まちづくりをしている立場からするとドキッとするとところですが、体を動かして楽しく遊べるように、体育館のようないつでも使える場所が欲しいという意見があります。使える場所がないということです。この生徒さんはそう思っているわけです。あるはずなのですが、ないということはどういうことか。そのときに、区の回答として、こういうものが用意されていますと言うことは簡単ですが、恐らく何か、われわれに欠けているものがあるのかもしれない。

同じように9番の意見、これはなかなか楽しいと思うのですが、子供でも飽きないイベントをもっと増やしたい、要するにこれは子供が行って飽きたということです。今の観光につながる話で、つまり上野の文化は、大人にとっては素晴らしいですが、子供には少し高尚過ぎるのか、だから入り口を設定してみたらどうですか、という非常に積極的な提案です。先ほど委員がおっしゃった、こういうものを受けて、われわれとしてきちんと読み

込んで、数年後に少しこのような工夫をしてみましたという、もう1回意見を聞くことができれば、20年後は恐らく東京で一番有名な区になっているでしょう。

○会長

ありがとうございました。14名の方々がそれぞれどういうテーマで区長と話をしようかと思って持ち寄ったことが14個出ているわけです。大変興味深い内容かと思えます。ぜひご参考にしてください。

議題（5）新たな基本構想の考え方について

○会長

それでは次の議題は、これから策定に向かうべき基本構想について、今このように考えているという区のご意見がございますので、それについて説明をお願いします。

○事務局

—新たな基本構想の考え方についての説明—

○会長

既に最初の審議会でもご報告があったのではないかと思います。全体の体系を今の基本構想と違って非常にフラットなカタチでやりたいということですが、これについてまずいかがでしょうか。お手元に現行の基本構想がございます。こういうカタチで前回はまとめたわけですが、今回は、基本理念と将来像は一体化して、しかもそれが現行のキャッチフレーズのような、そういうカタチで将来像を示して、それについてさらに基本目標を決めていくということです。前回は分野別に基本目標をつくったわけですが、今回は皆さま方のご議論の中で基本構想をどうするかというのを決めていきたいということでもあります。このような進め方についていかがでしょうか。

○委員

進め方について今ご説明があって、しかも今後どういう会議体でどういうお話をすれば良いかという説明もあったので、とても分かりやすく良かったです。次回の基本構想に関しては、それこそ理念をやめて、というところなのですが、今回のこの段取り、審議会で審議していく段取りを見ていくと、基本的にはボトムアップで決めていきたいという流れになっているのだと思っています。それぞれの小委員会でそれぞれのネタを話すというカタチになって、これは一つにまとめるということで良いでしょう。ただ、今の段階でOKできるかどうかよく分からなくて、事務局からは一つの大きなキャッチフレーズのようなものの下に付けていきたいという考えを提示していただいただけで、そこを思い描きながら各小委員会の話をしたけれども、結果拳がってきたものが、もしかしたら相反

するものがあって、二つにならざるを得ない、分けておいたほうが分かりやすいだろうという議論も出てくるかもしれませんが、念頭に何かないとやりにくいから案を挙げたというレベル感なのかと理解をしています。ボトムアップ型をやるのなら、逆に言うと、そこは一つ頭の中に押さえながら、結果として後々それが二つになる、三つになるというのは、第6回の審議会でも話ができるということでもありますので、それで良いのかと思います。そういう理解で合っているのかだけ確認させてください。

○事務局

事務局としては、皆さまがこの後小委員会でご議論するにあたって、どのような基本構想を作っていくのかという、いわゆる骨組みの部分は、こういうかたちでやりたいという考え方を示させていただいて、それを念頭にご議論いただきたいということでご提案をさせていただいているものです。小委員会の後、審議会に戻った際に、いろいろ議論になる部分もあろうかとは思いますが、その辺につきましては、その議論を踏まえて、皆さまでまた考えていただきたいところでございます。

○会長

よろしいでしょうか。将来像というのを最初から議論するのは難しいので、小委員会での議論を踏まえ、最終的に区の将来像を示していくということです。いかがでしょうか。

○委員

小委員会の流れについてお伺いをしたいのですが、キーワード等について意見をもらう、というような文言があります。付箋などを使って一定のルールを明示したワークショップ形式でやるのか、ファシリテーターはどなたがやっていただけるのかなど、詳しく教えてくださいいただけますか。

○事務局

こちらにつきましては、先ほどご説明いたしました区民ワークショップ的なやり方ではなく、審議会の縮小版と言ったら良いのでしょうか、10名の委員さんでさまざまご意見をいただきながら、事務局でまとめていくというスタイルで考えております。

各小委員会には委員長を置かせていただきますので、そこで議論をまとめていただく、そのようなやり方でございます。

○委員

ありがとうございます。ファシリテーターと委員長さんは多分違うのかという気がして、というのも、今人数が多いからですが、全員から均等に意見が出るということは、もちろん時間的な制約もありますし、難しいことではあります。ただ小委員会になり

ますと、ある程度さまざまな代表の方が集まっているので、それぞれの意見が出てくる、なるべく均等に出てくるというのが望ましいだろうと私は思っています。先日区民ワークショップを見学させていただきましたが、いろいろな世代・性別の方が集まっていたが、一定レベルのファシリテーターの方が付いたことで、活発な議論が行われていました。また、実施場所も10階の会議室でやっていたので、硬い場ではあったのですが、お菓子や飲み物を用意して、自由に取って良いですよというなかたちで、なるべく新たなアイデアが出るような、柔軟なアイデアが出るようなかたちで運営されていたと思います。できるなら、場所、雰囲気、やり方等、もう少し新しいアイデアが出そうな環境を用意するほうが望ましいとは私は考えます。多分付箋を出したからいろいろ意見が出せたと、区民ワークショップの結果、そちらにも感想、アンケートの中にもありましたように、区民ワークショップのように雰囲気・場所・やり方を工夫すべきなのではないかと思います。その辺りはいかがでしょうか。

○事務局

進め方につきましては、あらかじめご案内をさせていただいているところですが、その辺は各小委員会の委員長ともよくご相談をさせていただきたいと思います。三つの小委員会に分かれますので、各委員会が皆ばらばらというわけにもなかなかいかない部分もごさいます。その辺につきましては、ある程度統一的なやり方で進めさせていただければと考えております。

○委員

直前ですので、無理なことを言っているのも分かっているのですが、そういったところもきちんと考えていかないと、20年後なんて想像もつかないです。20年前、今のことを考えたときに、恐らく本当に想像がつかなかったところにきているので、さらにその先と考えたときに、それがなるべく生まれやすい環境というのをぜひつくっていただきたいというのが一つです。

それから、最後にできる基本構想についてなのですが、この目的、この基本構想をどのように利用するかにもよるのですが、区民の方に親しまれる、できればこの1ページの下の方に、区の目指す姿を区民により分かりやすく明確に示すため、と書いてあるので、区民の方にもしっかりと周知して、分かっていたほうが良いと思っています。そうすると、できる限り分かりやすい言葉でまとめる方向がよいと思うのですが、その辺りもぜひ検討いただければと思います。

○事務局

区民ワークショップに参加された区民の方からも、感想の中で、分かりやすい言葉を、というアンケートの回答もございました。各区の基本構想をお配りさせていただいている

中で、いろいろなかたちがあるということは、各委員にもご理解いただけたかと思っております。その辺につきましても引き続き検討していきたいと考えております。

○委員

あらためて20年後の望ましい姿がこの目標だということを受けまして、20年先の社会がどうなっているのかということ想像するのは、本当に難しいと思います。ただ、確実に20年後には超高齢化社会が来ています。高齢化率が何パーセントになっている、あるいは観光の分野でも年間観光客数が2,400万ですが、20年後は6,000万人という目標だったのかと思います。自動車なども自動運転になっていそうです。電気自動車が動き回っているような社会です。ある程度自分の分野以外でもどのような社会になっているのか、分かることについては、それをベースに話をしたほうが良いのかと思います。今の課題であるW i - f i の整備、決済手段が変わりつつあるというような話は、もう今年、来年の話です。20年先を議論するには圧倒的に自分の分野以外のことが分かっていないという気がしました。そういう資料も、あるならば提供していただけると、ありがとうございます。

○事務局

委員からのご提案につきましては、現在まとめられるものが幾つかございますので、そちらは整理をさせていただければと思っております。しかし、全ての分野、全ての状況について網羅できるかということ、その辺りはいろいろ調べさせていただきます、ご提供できるものにつきましては提供させていただきますと思っております。

○委員

今のは大切な話で、A I や I o T をどこかに入れなければいけないので、これについての資料はぜひ出してほしいです。エネルギー改革についてもできれば出していただきたいです。区で分かる範囲はかなり限られていると思いますけれども、これから再生エネルギーがどうなるのかなど、一定の方向性はあると思いますので、出していただきたいです。

○委員

議論を聞いておまして、基本的な台東区民の一つの観念が、われわれには欠けているのではないかと思います。台東区民は江戸なのです。寛永寺から浅草の観音様は全部江戸なのです。吉原もそうです。浅草、上野は、江戸時代では御府内なのです。要するにこれがわれわれの感覚の基本になっているのです。ですから、例えば今おっしゃったように20年後も、台東区民はやはり江戸なのです。江戸のつながりだと思います。これを基本に、気持ちの中で、観光にしても産業にしても、浅草橋の御門から観音様、江戸通り、これはまさに感覚的に言ったら、われわれの血の中には江戸がそのままずっと流れてきているの

です。

清川というところに玉姫稲荷がありまして、ここは伝統的に革の産業の地です。市民が繁栄したのは、玉姫神社のおかげだということで、玉姫の靴祭りをやったのです。そのような、地についての産業と宗教が本当にうまく結び付いている例です。そういう意味で、上野の観光連盟も、浅草の観光連盟も、基本的に流れているのは江戸の血なのです。これをぜひ基本構想の中に入れていただきたいというのが私の願いです。よろしくお願いします。

○委員

私は下町をやめて、下町は一つの思い出で良いと思います。英語で言うと、下町はダウントウンです。どうしても下なのです。

台東区はこれから一番変化が激しいときで、今観光客がたくさん来ています。台東区という名刺を出して、台湾の方ですかと言われた人がいたそうです。時々平仮名で使っていますが、いっそ台東区の台東を平仮名にしてしまったらまずいですか。23区ですごく目立つと思います。平仮名は1区しかありません。しかも下町をなくして粋だとか、これでドッキングしたら注目の的ですよ。そこを考えると面白いと思います。素晴らしいアイデアだと思います。しかも子供たちは観光文化ということを知っていますので、粋だというのはぴったりではないですか。区民アンケートのグラフを見ると、観光や文化はトップになっています。中央区も粋という言葉を使っていますが、中央区の粋と台東区の粋は中身が違います。

○委員

小委員会がある程度専門で分かれているということで、先ほど中学生のアンケートにもあったように、台東区はやはり観光であるということを知っているから、小委員会の第1グループは子育て、教育、生涯学習、パートナーシップということでひとくくりになっているのですが、ここで生まれ育った子供たちが、この産業や文化、観光を全く意識しないで育つかというと、そうではないと思います。小委員会の日時は別になっていますけれども、第3グループの産業、観光、文化と教育をセットにして考えていけたら良いと思います。

○事務局

これまでの分野別の審議につきましても、便宜的に現行の基本構想の分野に準じてご議論いただいたところがございます。これまでも、分野間の横断的な視点で考えたほうが良いのではないか、というご意見を多々いただいております。ですので、各小委員会では、ある程度分野は区切らせてはいただきますけれども、当然関連するご意見等は出てくるものと考えておりますので、その辺りの整理につきましては、事務局としても鋭意取り組んでいきたいと思っております。

○委員

便宜的に、前回の基本構想の分野別に議論してもらったということなのですが、やはりまだ事務局主導なのです。この事務局主導を壊さないとまた同じものができてしまうと思います。私は基本目標の中にどれだけ横断的な視点が入るか、例えば先ほどもありましたけれども、中学生と区長との語る会の資料4別紙の3番、「人々の全てが明るく過ごしていけるような思いやりのある優しい区」、ここに全ての分野、まちづくりも入れば全部入ってくるわけです。ところが、基本目標が資料に記載されているように5つになると、また産業、観光、文化となってしまうのではないかと、そのような懸念があります。ですから、議論の方向としてはこれしかないのかもしれませんが、それぞれの小委員会で他の分野に関わる部分でどのような意見が出たのか、その辺をきちんと拾い上げていただきながら、別紙3のこの審議内容のフローのところで行くと、項番4から5に至る過程、ここを何とか事務局主導を打ち破っていく、委員会の皆さんの知恵を出して、こここのところを変えたいと思っています。

○会長

ありがとうございました。全ての委員が全ての小委員会に出られるわけではないので、それを全て情報として持っているのはどうしても事務局であって、たたき台を出していただいて、それを審議会のほうで修正していくという方向しかないという気がしています。

○事務局

事務局としても、各委員のご意見をしっかりと反映していきたいと思っております。事務局主導というご意見は真摯に受けとめていきますけれども、今回につきましてはこのやり方、進め方の中でいろいろとご意見をいただきながら進めていきたいというのが事務局の考えでございます。

○会長

事務局の考え方というのは、前回ご提出いただいた基本構想検討シートを、審議会で付け加えられた意見なども踏まえ修正し、それをもとに議論するわけです。そして、各分野における20年後の望ましい姿をつくっていただけたらということになります。進め方において何かご意見ございますか。

○委員

進め方と少し違うのですが、個人的な感想と要望です。20年後がどういう世界になっているのか、先ほど話があつてふと考えてみたのですが、必ず発達しているのが多分AIとロボットなのです。翻訳や外国人対応といったことも、20年後には多分同時翻訳機のようなものができていて、簡単に解決できるのだらうと思います。そのときに大事なのが

何かというと人だと思えます。それから、ここに各区の基本構想があつて見ていたのですが、私が住んでいるのは渋谷区ですけれども、渋谷区は今建設ラッシュで、渋谷駅を中心に高層ビルがたくさんできています。そこで思うのは、渋谷は物のまちだという感想です。渋谷区の基本構想には、まちの主役は人だとして書いてあるのですが、住んでいて感じるのは物のまちかなということです。その対極は人のまちで、台東区はそういう意味で人のまちを目指すのが良いのかと思いました。

それから渋谷区の基本構想を見ていて、ダイバーシティやインクルージョン、サステナビリティなどという言葉があるのですが、台東区の基本構想ではぜひともこういう言葉使いではない表現をしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員

どの小委員会でも必要だと思われる視点として、全ての施策を区役所がやれるわけではなくて、広域的に処理しなければいけない問題があると思えます。ですから、近隣の区と連携していくことが必要なこと、あるいは都や国に対して要望していくことも出てくるはずなので、それを分野ごとにきちんと抽出しておいて議論ができるようにしておくことが重要かと思えます。

○委員

今の基本構想ですけれども、人口動向がここまできるとは思わなかったという大きな変化がありました。20年後を見据えてやりますけれども、全てがそのとおりになるかというところではない、その下の行政計画などで調整をしていくわけです。今回の基本構想に関しては、事務局はあくまでも裏方でやっていただいて、これだけのメンバーがいますので、しっかりと議論していただきたいと思えます。今の基本構想は、基本構想にしては細か過ぎるとずっと思っていました。そういう考えでいけば、もう少し集約して分かりやすいかたちにするというのは、私もベストだと思えます。そこにたどり着くまでに、小委員会ですっきりと議論して、まとめられるのであれば、そこでまとめてしまうぐらいの感じでも良いと思えます。あとはしっかり繕ってもらうのは事務局でやっていただくという流れでお願いしたいと思えます。あらためて聞きますが、それでいかがでしょうか。

○事務局

ご指摘ありがとうございました。事務局としても、事務局案をつくるということではないので、各委員のご意見をしっかりと踏まえたものを、資料等としていろいろ出していきたい、そのように考えているところでございます。

○委員

時間がかかるかもしれませんが、よろしくお願いいたしますと思えます。

○会長

ありがとうございました。12月1日は子育て、教育、生涯学習、パートナーシップ分野を所管する第1グループの小委員会が開催されます。今日の審議会で要望のありました20年後の環境変化については、12月1日までに資料を集めていただければと思います。

3. その他

○会長

3回の小委員会があって、それからまた全体の審議会、第6回が開催されるということになっております。小委員会の委員長の先生方、よろしく願いいたします。

それでは、本日の議題は以上となりますが、事務局のほうからその他ということをお願いいたします。

○事務局

—議事録及び次回審議会についての説明—

4. 閉会

○会長

ありがとうございました。それでは第5回の審議会を終わりたいと思います。どうも遅くまでありがとうございました。

(午後9時00分 閉会)